

小中学生が浦戸で牡蠣むき体験 ～浦戸小中学校～

本市の浦戸小中学校の児童生徒が、浦戸野々島の牡蠣処理場において、地域の方々のご指導をいただきながら、牡蠣むき体験をします。

◇ 浦戸小中学校 牡蠣むき体験 ◇

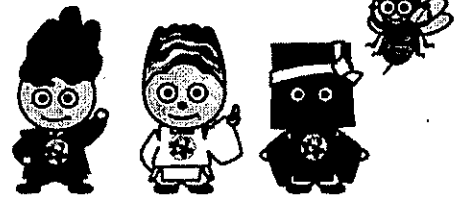
1. 実施日 平成31年1月17日(木)
2. 場所 浦戸野々島牡蠣処理場
3. 参加者 浦戸小中学校全校児童生徒52名(予定)

※雨天の場合は、浦戸諸島開発総合センターに変更

冬の味覚で「海のミルク」とも呼ばれる「牡蠣」がどのような作業を通じて自分たちの食卓にあがるか、全校児童生徒が実際に牡蠣処理場を見学し、牡蠣むきに挑戦します。

重要な地場産業を、身をもって実感できる本当に貴重な体験です。

機械化が進む現代ですが、牡蠣むきは凍てつく寒さの中での手作業になります。冬の養殖業の大変さを感じてほしいと思います。



むいた牡蠣は、浦戸諸島開発総合センター（ブルーセンター）で牡蠣汁をつくり、冬の味覚を堪能します。

塩竈市立浦戸小中学校は、浦戸諸島の中の野々島にあり、平成27年4月から施設一体型の小中一貫校として、新たなスタートを切っています。

平成17年度から「小規模特認制度」を取り入れ、小中併設校として11年間の準備の後、文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、独自の教科「浦戸科」を設けたり、小中学校教員の「乗り入れ授業」や小中学生の「ふれあい学習」などを行ったりと、浦戸ならではの小中一貫教育を進めています。

「浦戸科」では、浦戸の恵まれた自然環境や文化、伝統などの地域素材に触れながら、今回の牡蠣むき体験をはじめ、田植え・稲刈り体験や海苔すき体験などの自然体験学習や、地域の自然や歴史を題材とした演劇活動「ACT」など、地域の特性を生かした学習に取り組んでいます。